

国の動向(抜粋)

【参考】 文部科学省資料一部抜粋

- これからの高等学校教育について (令和2年11月25日)
- 令和の日本型学校教育の構築を目指して(答申)【総論解説】
(令和3年3月30日)

国の動向 ①

—高等学校改革の方向性—

出典：これからの高等学校教育について（令2.11 文部科学省資料）

1 高等学校教育を取り巻く現状と課題認識

高校進学率 = 約99%

- ✓ 多様な入学動機や進路希望、学習経験など様々な背景を持つ生徒
- ✓ 特別な支援を要する生徒や日本語指導を必要とする生徒
- ✓ 高校生の学習意欲の低下
- ✓ 選挙権年齢・成年年齢の引下げ＝一人の「大人」としての振る舞いが期待

「非連続的」な社会経済の変化＝予測困難な時代

- ✓ Society5.0の到来
- ✓ ライフコースや価値観の変化・多様化
- ✓ 人口減少の加速化・高齢化の進行
- ✓ 人生100年時代

生徒の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための教育活動

共通性の確保 全ての高校生が社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付ける

多様性への対応 一人一人の生徒の進路に応じた多様な可能性を伸ばす

▶ 卒業後の大学等において学びを深めたり、
実社会で様々な課題に接したりする際に必要となる力を身に付けるための学習

2 新型コロナウイルス感染症の感染拡大

新型コロナウイルス感染症 → 高校教育への制約

- ✓ 教室内における学び
- ✓ 地域社会を題材としたフィールドワークや海外研修
- ✓ 実習や実験、実技

高等学校の役割・在り方の再認識

学習機会と学力の
保障機能

社会性・人間性を
育む社会的機能

安全・安心な居場所を
提供する福祉的機能

ICTを最大限活用した学習保障の必要性の顕在化

- ✓ オンラインでの教師による学習支援やタブレットを活用した自学自習
- ✓ 一方、教師から生徒への対面指導、生徒同士の関わり合いといった学校教育の特質は失われない

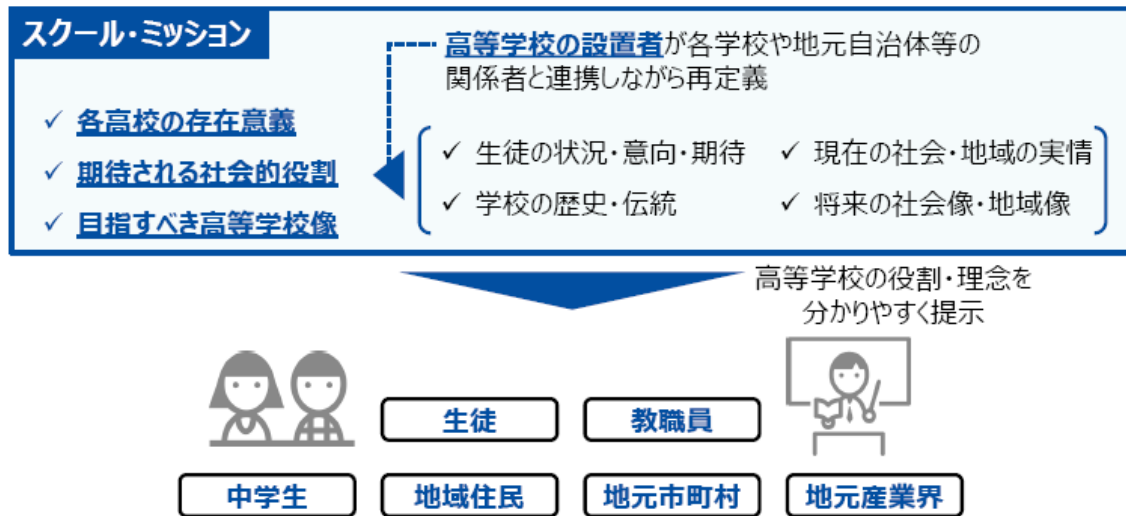
▶ 遠隔・オンラインか対面・オフラインかという二元論に陥ることなく、
その最適な組合せによって、全ての生徒の可能性を引き出す学びを支援することが重要

国の動向 ② —各高校の特色化・魅力化—

1 スクールミッションの再定義

■背景

- ✓ 各高校の在り方を検討する上で、各高校が育成を目指す資質・能力を明確化することが重要
- ✓ しかし、学校教育目標等が抽象的で分かりにくい、校内外への共有・浸透が不十分といった指摘



- ✓ 中学校における進路指導の充実や中学生の学校選択、高校生の科目選択にも資するものとして期待

スクール・ミッションの策定単位

- ✓ 基本的に、**高等学校全体**が策定単位

〔各学校の実情に応じて、当該高等学校の一体的な運営に配慮しながら
各学科・課程を策定単位とすることも含めて設置者が適切に判断〕

スクール・ミッションの導入時期

- ・教育基本計画
- ・高校改革・振興に関する計画
- …始期・終期・期間は様々

▶ スクール・ミッションの再定義は、各設置者における**高等学校教育に関する各種計画の策定・見直しを通じて、各地域の実情に応じて、適切な時機を捉えて行うもの**

スクール・ミッションの期間

- ✓ 基本的に**一定の中長期の年限**（≠校長の異動により変更）
- ✓ スクール・ミッションに基づく**教育活動の継続性を担保**する観点からの工夫

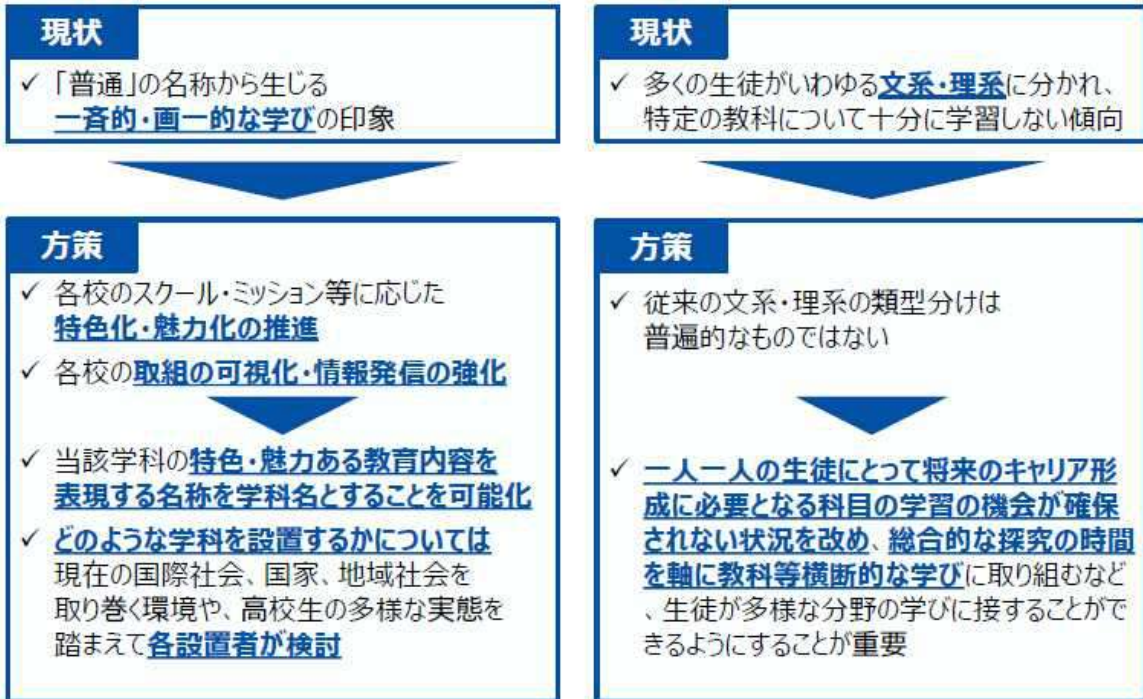
※公立学校における教員人事の流動性の意義

▶ 校長の在職年数を一定程度確保
校長の人事異動に係る意図・狙いを公表

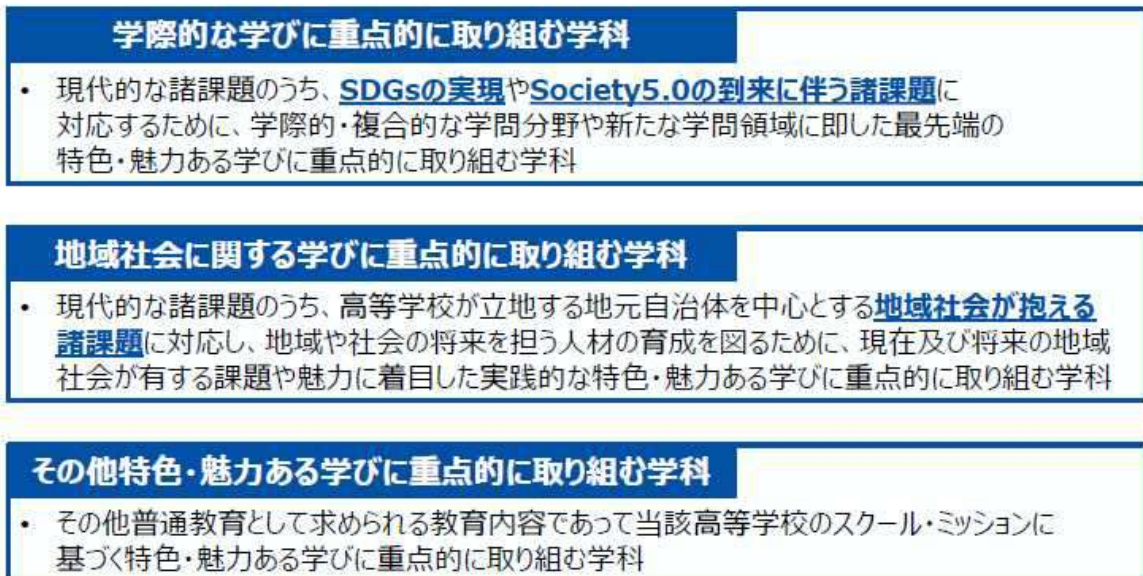
国の動向 ③ — 学科の特質に応じた教育活動の充実強化 —

1 普通科改革

学科数で5割以上、生徒数で7割以上を占める普通科



✓ 「普通教育を主とする学科」として以下のような学科の設置が考えられる。



- ✓ 上記の各学科は、当該学科における教育活動の特色・魅力として何に重点を置かを示したものであり、設置者において、これらの特徴を組み合わせた学科を設置することも可能
- ✓ 学科の名称は、特色化・魅力化を実現する趣旨として適当なものとなる必要

2 専門学科改革

職業教育を主とする学科に期待される役割

- 産業界に関する理解の増進
- 職業観・勤労観の育成
- 実社会において必要な技術や課題解決能力の習得

▶ **地域産業の持続的な発展を支える職業人の育成**

育成が期待される資質・能力の変化

- 農業、漁業、製造業等の地域産業の後継者不足
- 社会の急激な変化（技術革新・産業構造の変化、グローバル化等）

▶ **今後も、育成が期待される資質・能力が大きく変化することが想定される**

加速度的な変化の最前線にある地域産業界で直接的に学ぶことができるよう

- ✓ 経済団体等の産業界を核として、地域の産官学が一体となった連携・協働
- ✓ 将来の地域産業界の在り方を検討
- ✓ 高校段階での人材育成の在り方を整理

▶ **産業界と高等学校が一体となった社会に開かれた教育課程の開発・実践**



最先端の職業教育のための条件整備

教師の資質能力の向上

- ✓ 実社会において求められる知識・技能の変化に応じて教師自身が学び続けること
- ✓ 多様な知識・経験を持つ外部人材との連携強化

施設・設備の充実

- ✓ 設置者による計画的な整備
- ✓ 国等による財政的措置の充実
- ✓ 実習における地元企業等の施設の活用
- ✓ ふるさと納税等の活用による整備

職業教育を主とする学科の卒業後の進路

- ✓ 必ずしも就職に限られない卒業後の進路



(令和元年度学校基本調査)

- ✓ **高等教育機関と連携・協働**した一貫した教育課程の開発・実施（大学の授業の先取り履修等）
- ✓ **3年間に限らない教育課程**の開発・実施（専攻科制度の活用、高等専門学校への改編等）

職業教育に関する情報発信

- ✓ 職業教育を主とする学科について、中学生、保護者、教師等に十分に理解されていないとの指摘
- ✓ **産業界の関係団体とも連携し、職業教育を主とする学科の内容や、最先端の学びに取り組む生徒の実像についての情報発信を強化**
- ✓ 職業教育を主とする学科や、産業に対する理解、興味・関心の増進

職業教育以外の専門教育を主とする学科

- 理数に関する学科
- 外国語に関する学科
- 体育に関する学科
- 国際関係に関する学科
- 音楽に関する学科
- その他専門教育を施す学科
- 美術に関する学科

- ✓ **当該専門分野の教科・科目を中心に据えた教育課程**の編成・実施による特色化・魅力化

※理数や国際関係に関する学科等を「普通教育を主とする学科」の枠組みに統合することについては将来的な課題として検討

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

社会背景

【急激に変化する時代】

- 社会の在り方が劇的に変わる「**Society 5.0時代**」
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大など先行き不透明な「**予測困難な時代**」
- 社会全体の **デジタル化・オンライン化、DX加速の必要性**

子供たちに育むべき資質・能力

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

【ポイント】

- ✓ これらの資質・能力を育むためには、**新学習指導要領の着実な実施**が重要
- ✓ これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、**ICTの活用**が必要不可欠

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

【日本型学校教育】とは？

子供たちの知・徳・体を一体で育む学校教育

- 学習機会と学力の保障
- 全人的な発達・成長の保障
- 身体的・精神的な健康の保障

【成果】

国際的にトップクラスの学力

学力の地域差の縮小

規範意識・道徳心の高さ

【今日の学校教育が直面している課題】

子供たちの多様化

生徒の学習意欲の低下

教師の長時間労働

情報化への対応の遅れ

少子化・人口減少の影響

感染症への対応

【新しい動き】



新学習指導要領の着実な実施

学校における働き方改革

GIGAスクール構想

「正解主義」や「同調圧力」への
偏りからの脱却



一人一人の子供を主語にする
学校教育の実現

／「日本型学校教育」の良さを受け継ぎ、更に発展させる／
新しい時代の学校教育の実現

3.2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

2020年代を通じて実現を目指す学校教育
「令和の日本型学校教育」の姿

／全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現／



- ✓ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実されている
 - ✓ 各学校段階において、それぞれ目指す学びの姿が実現されている
- # 個別最適な学び # 協働的な学び
主体的・対話的で深い学び # ICTの活用



- ✓ 環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている
 - ✓ 子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている
 - ✓ 子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている
- # 教師の資質・能力の向上 # 多様な人材の確保 # 家庭や地域社会との連携
学校における働き方改革 # 教職の魅力発信 # 教職志望者の増加



- ✓ ICT環境の整備により全国の学校で指導・支援の充実、校務の効率化等がなされている
 - ✓ 新しい時代の学びを支える学校教育の環境が整備されている
 - ✓ 人口減少地域においても魅力的な教育環境が実現されている
- # ICT環境の整備 # 学校施設の整備
少人数によるきめ細かな指導体制

「令和の日本型学校教育」における「子供の学び」の姿について

「子供の学び」の姿

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、

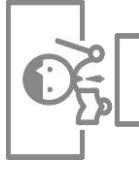
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる



個別最適な学び
協働的な学び

一体的に充実

主体的・対話的で
深い学び



授業外の学習改善

授業改善

「子供の資質・能力の育成」

個別最適な学び【学習者視点】（二個に応じた指導【教師視点】）

「子供が自己調整しながら学習を進めていく」

指導の個別化

- ✓ 子供一人一人の特性・学習進度・学習到達度等に応じ、
- ✓ 教師は必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫を行う

→ 一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める

学習の個性化

- ✓ 子供一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、
- ✓ 教師は一人一人に応じた学習活動や課題に取り組み機会を提供を行う

→ 異なる目標に向けて、学習を深め、広げる



協働的な学び



- ✓ 子供一人一人のよい点や可能性を生かし、

- ✓ 子供同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働する

→ 異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出す

各学校段階において目指す学びの姿

幼児教育

- 小学校との円滑な接続・質の評価を通じたPDCAサイクルの構築等による、質の高い教育が提供されている
- 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で達成感を味わいながら、全ての幼児が健やかに育つことができる

義務教育

- 基礎的・基本的な知識・技能や学習の基盤となる資質・能力等の確実な育成が行われるとともに、多様な一人一人の興味・関心等に応じた学びが提供されている
- 児童生徒同士の学び合いや探究的な学びなどを通じ、地域の構成員や主権者としての意識が育まれている
- 全ての児童生徒が安全・安心に学ぶことができる

高等学校教育

- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力や、社会の形成に主体的に参画するための資質・能力が育まれている
- 多様な関係機関との連携・協働による地域・社会の課題解決に向けた学びが行われている
- 探究的な学びやSTEAM教育など教科等横断的な学びが提供されている

特別支援教育

- 全ての教育段階において、インクルーシブ教育システムの理念を構築することを旨として行われ、全ての子供たちが適切な教育を受けられる環境整備
- 障害のある子供とない子供が可能な限りともに教育を受けられる条件整備
- 障害のある子供の自立と社会参加を見据え、連続性のある多様な学びの場の一層の充実・整備

4.「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性

学校や教師がすべき業務・役割・指導の

＼**範囲・内容・量の精選・縮減・重点化**／

＼**学校と地域社会の連携・協働**／

一体となって子供の成長を支えていく

＼**「二項対立」の陥穽に陥らない**／

かんせい

どちらの良さも適切に組み合わせさせて生かしていく

- 一斉授業 or 個別学習
- デジタル or アナログ
- 履修主義 or 修得主義
- 遠隔・オンライン or 対面・オフライン

全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現に向けて

改革に向けた6つの方向性

- (1) 学校教育の質と多様性、包摂性を高め、**教育の機会均等**を実現する
- (2) 連携・分担による**学校マネジメント**を実現する
- (3) **これまでの実践とICTとの最適な組合せ**を実現する
- (4) **履修主義・修得主義**等を適切に組み合わせる
- (5) 感染症や災害の発生等乗り越えて**学びを保障する**
- (6) 社会構造の変化の中で、**持続的で魅力ある学校教育**を実現する

5.「令和の日本型学校教育」の構築に向けたICTの活用に関する基本的な考え方

【基本的な考え方】

- ✓ **学校教育の基盤的なツールとして、ICTは必要不可欠なもの**
- ✓ **これまでの実践とICTとを最適に組み合わせていく**

＼**Society5.0時代にふさわしい学校の実現**／

- ▶ 学校教育の様々な課題を解決し、教育の質向上につなげる
- ▶ PDCAサイクルを意識し、効果検証・分析を適切に行う
- ▶ ICTを活用すること自体が目的化してしまわないよう留意

(1) 学校教育の質の向上に向けたICTの活用

- ICTを主体的・対話的で深い学びの実現に向けた**授業改善**に生かすとともに、今までできなかった**学習活動の実施**や**家庭など学校外での学び**を充実する
 - 特別な支援が必要な児童生徒へのきめ細かな支援や、個々の才能を伸ばす**高度な学びの機会の提供**など、児童生徒一人一人に寄り添った指導を行う
- #**端末の日常的な活用** #ICTは「**文房具**」
#ICTの活用と少人数学級を両輪とした**きめ細かな指導**

(2) ICTの活用に向けた教師の資質・能力の向上

- 教員養成・研修全体を通じ、教師が**必要な資質・能力**を身に付けられる環境を実現する
 - 教員養成大学・学部は**新たな時代に対応した教員養成モデルの構築**や、**不断の授業改善**に取り組み**教師のネットワークの中核**としての役割を果たす
- #ICT活用**指導力の養成** #**データリテラシーの向上**
#**指導ノウハウの収集・分析**

(3) ICT環境整備の在り方

- GIGAスクール構想により配備される端末は、**クラウドにアクセスし、各種サービスを活用**することを前提
 - 各学校段階（小・中・高）における**1人1台端末環境の実現**と、**端末の家庭への持ち帰り**が望まれる
- #**デジタル教科書・教材の普及促進**
#**教育データの利活用** #**ICT人材の確保**
#**校務効率化**